

第5学年西組 社会科学学習指導案

「日本の稲作農家の二つの姿」

学習指導者 滝井 康隆

1 学級（35名）の実態

（1）方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔問題を発見して、課題を設定する力〕

社会科の時間に、「自分が分かっていることとまだ分かっていないことを考えている」「勉強を始める前に、これから何をどうやって勉強するかを考えている」と答えた子供は、どちらも30名であった。しかし、授業の見通し場面では、数人の子供が本時の学習課題を発表し、多くの子供はそれを受容している状態であり自分で課題を見いだしているとは言えない。

（2）教科に関する学級の実態

35名の子供が毎日米を食べている。そのうち、22名の子供は朝夕ともに米を食べている。米の入手先については、「お店で買っている」と答えた子供は13名であり、約半数の子供は祖父母や親戚からもらったり安く譲り受けたりしている。また、米作りを担っている人のイメージは、50～60才以上と考える子供が多く、米作りは大変な作業が多い様子を思い浮かべている。

習得を目指す「問題を発見して、課題を設定する方法」

自分が考えたいことが、みんなで考えるべきことか話し合って決める

2 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本単元では、普段自分たちが食べている米を生産している農家の姿を正確に理解し、今後の稲作農家の在り方について自分なりの考えをもとうとしていく。

毎日食べている米が全国各地で生産されていることに気付いた子供たちは、「どこでたくさんの米が生産されているのか」など、各自の感じる疑問を記述する。その後「香川県ではどれくらい米を生産しているのかな」「なるほど、香川県の生産量は気になるね。でも一番多いところをみんなで考えるべきだと思うよ」「確かに。みんなで全部の都道府県を調べて一番多いところを見付けたいな」などと班で話し合い、話し合ったことを基に全体で「日本の米の主な生産地はどこだろう」といった学習課題を設定していく。そして、地図等の資料を使って日本各地の生産量を調べ、米は全国で生産されており新潟県が最多であることを知る。その後、おいしい米が大量に生産できる理由に興味をもち、「米作りについて理解しよう」という目標を設定し調べる計画を立てる。新潟県の土地の様子、米作りに必要な作業、よりよい品種を生み出そうとする人の活動、手間と費用がかかる流通の仕組みを調べるなど、時間空間的視野や立場を広げながら新潟県の米作りについて理解を深め、機械を導入したり土地を集約したりして効率化するなど様々な工夫を重ねながら大規模に米作りをする農家が日本の食料生産を支えていることを捉えていく。このように大規模農家について理解を深めてきた子供たちは、小規模農家の存在を知り、利益が少ないのに米の生産を続けていることに疑問をもち、さらに調べを進めていく。小規模農家が様々な思いで米作りをしていること、その存在が世界的に見直されていることを理解し、彼らの活動が美しい風景や道や水路の整備など多様な農村環境の維持につながっていることを捉えていく。

このような学習をしてきた子供たちは、最新の技術を導入して様々な工夫を重ね大規模に生産することで日本の食料生産を支えている農家や、小さな土地で農作業に励む農家達の存在が、自分達の豊かな生活につながっていることを捉え、今後の米の生産や農家の在り方について様々な立場から多角的に考え続けていくだろう。

3 単元計画と単元構成の工夫（本時 9/11）

次	学習の流れ	単元構成の工夫
一	① 日本の米の主な生産地はどこだろう 新潟県の米を試食して米作りへの興味を高め、日本全体の米の生産量を調べ、新潟県が多いことに気付く。その後、米作りに適した自然条件について知る。	【達成意欲を高める目標共有の工夫】①②、⑦ ①に、新潟県産の米を試食し、新潟県では大量においしい米が作られていることに気付かせる。②では、新潟県が米作りに適していることを理解させ、そのほかにも工夫がありそうだという予想を基に「米作りについて理解しよう」という目標を設定する。その後、大量においしい米を生産し消費者に届けるために必要なことを予想させ、目標を達成するための計画を立てる。
	② 新潟県は、米作りに適しているのだろうか 新潟県の自然条件を調べ、米作りに適した地域であることを理解する。米作りに関する疑問を話し合い、学習計画を立てる。	
二	③～⑥ 米はどのように生産され、自分達のところまで来ているのだろうか ②に設定した課題「新潟県では、どうやって米作りをしているのだろうか」「農家はどのような工夫をしているのだろうか」「生産された米はどうやって運ばれるのだろうか」について、自分で取り組む順番を決めて解決していく。その中で、新潟県では広い農地を生かして工夫しながら効率的に米が生産され、様々な人を介して消費者に届けられることを理解する。⑥に調べたことを交流し、そのような米作りが全国各地で行われていることを知る。	⑦に、米作りは大規模生産の方が効率がよいことを理解させた上で、小規模農家の存在を知らせ、農家の二つの姿に気付かせる。小規模農家の存在について疑問をもち、「今後の農家の在り方を考えよう」という目標を設定する。
	⑦ なぜ米の値段の半分しか生産者にいかないのだろうか 資料を見て生産者の利益は、米の販売価格の半分ほどであることを知り、その理由を調べ、運搬費や広告費等の経費がかかることを理解する。農家が直接販売に取り組んだり、大規模生産したりすると効率的になり利益が大きくなることを理解する。	
	⑧ なぜ、小さい田んぼで生産をしているのだろうか 小規模農家は様々な思いで米の生産を続けており、彼らの生産活動が農村環境の維持につながっており、世界的にその存在が見直されてきているが、その数が減少していることを知る。	
	⑨ 小規模農家はそのまま減っていてもよいだろうか 生産者や消費者など、様々な立場から小規模農家の存在意義について話し合い、農家の様々な役割を捉える。	
三	⑩ 課題に対して、どのような取組があるのだろうか 米の消費量が減少してきていることを知り、農家が様々な対策をして生産を続けようとしていることを理解する。	【子供が自ら選択して、学びを進める時間】③④⑤ ③④⑤は、教科書や資料集、インターネットを使って新潟県の米作りや生産した米の流通の仕方について自分なりに調べてまとめる時間とする。調べを進める際には、取り組む課題や一つ一つの課題の解決にかかる時間、調べ方やまとめ方を選べるようにしておく。自分なりに調べてまとめるのが難しいと感じる子供に、手掛かりとなる資料やワークシートを用意しておき、子供が自分で学びを進めることができるようにする。活動中は困っている子供にアドバイスしたり、自分なりに資料を使って調べを進めている子供を称賛したりする。活動後は、その時間中に取り組んだことを提出させ、提出物にコメントを返すことで称賛したり、さらなる調べ活動に導いたりする。
	⑪ これから、米作りはどうなっていけばよいだろう これまでの学習をまとめ、様々な課題があるこれからの米作りの在り方について自分なりの考えを表現する。	

4 方法の習得の段階に合わせた手立て 【目当て会議】①②、⑦～⑩

認知段階①②	想起段階⑦～⑩
本単元までの社会科や道徳科において、授業の学習課題を設定する際に「自分が考えたいことが、みんなで考えるべきことか話し合っ決めて」という方法を教示している。①②に学習課題を設定する際には、個人で疑問を記述した後に、各自の疑問を班で伝え合う時間を設定する。その際、各班で各自の疑問がみんなで考えるべきことであるかを話し合うよう促し、方法を使って話し合うことができている班の様子を全体に伝える。	前時の学習内容を発表させた後、「目当てを決めるために何をすればよかったかな」と問いかけ、タイマーを設定して時間を意識しながら手順を進められるようにする。時数を重ねるごとに教師の話し合いへの介入を少なくしていく。

5 本時の学習

目標	利益が少ない小規模農家が減少し続けてもよいかを考え話し合う活動を通して、食料生産を支えるとともに、環境を維持するという稲作農家の存在意義を捉えることができる。
----	---

学習活動と手立て		主な子供の意識			
見 通 し	1 前時の学習を振り返り、学習課題を設定する。 【目当て会議】	前の時間は小規模農家の役割について考えたよ。この人達が米作りをすることで、水路や道の整備が行われ、棚田が守られていたよ。 小規模農家の数は減少していたよ。小規模農家が生産しなくなった土地は、大規模農家に集約されたりそのまま放棄されたりするのだね。 小規模農家が減っていくといろいろな困ることが出てくるのではないかな。 小規模農家が減って、大規模農家は増えていたね。このままでいいかな。 小規模農家について考えたいということ是一緒だね。みんなもこれは考えたいのではないかな。 小規模農家がこのまま減っていてもよいか、みんなの意見を聞いてみたいね。 小規模農家はそのまま減っていてもよいだろうか			
	2 農家の存在意義について考え、話し合う。 (1) 個別に (2) 全体で	減ってはいけないと思うよ。 減ってもよいと思うよ。 小規模農家が減ると、小さな田んぼや棚田が荒れてしまうよ。 小規模農家は、田んぼを守って米作りを続けたいと思っているよ。 大規模農家に土地が集まって、もっと効率的に米作りができるよ。 小規模農家全体の生産量は少ないから、減っても問題ないよ。 小規模農家がどんどんやめていくと、棚田がどんどん荒れてしまうよ。水路や道の整備もできなくなって環境が悪くなってしまうと思うよ。 小規模農家が生産をやめて、大規模農家に田んぼを譲れば、生産が効率化して、米の値段が安くなるよ。生産量自体もそんなに減らないと思うよ。 米の値段が安くなるのはいいね。大規模農家の人たちにはこれからも生産を頑張ってほしいな。 小規模農家の人たちは、お米の生産もしているし、棚田のある環境を守ることもしているのだね。			
	3 課題に対する考えをまとめる。	みんなの意見を参考にしながら、自分なりの結論を出そう。 小規模農家は、大規模農家が生産しない棚田を守るなど環境を維持していくためには大切な存在だから、減ってはいけないと思うよ。でも安く大量にお米を作るために大規模農家は大切だ。 小規模農家が減っても大規模農家が代わりに生産を続けるから困らないよ。でも、小規模農家は棚田を守るためや、水路や道の整備など大規模農家が使わない土地を守るという大切な役割があると分かったよ。 それぞれの農家に大切な役割があってどちらも大切だね。			
	4 本時の学習の振り返りを記述する。	小規模農家が必要かどうかを考えられたよ。それは、これまでの資料を振り返って考えたからだよ。 小規模農家が大切なことに気付けたよ。自分とは違う友達の意見を聞くことができたからだよ。			
行 動					
振 り 返 り					

評価	自分の感じた疑問を基に、学級で考えるべきことは何かを話し合っ課題を決めるとともに、小規模農家や大規模農家の存在意義について、友達の考えを参考にするなどして多角的に考え捉えたことを表現している。 【方法：発言、様相、記述】
----	---

6 本時の詳細

～見通し～ 学習活動1【目当て会議】

前時には、小規模農家が生産を続ける理由について学習している。その中で、小規模農家数は減少しているが、大規模農家数は増加し、米の需要は満たされていることを知らせている。また、身近に農家がいる子供は、本時まで「米作りに対する思い」などについてインタビューをしてきている。

本時では、まず既習事項を確認し、学習課題を設定していく。その際、教師は、「目当てを決めるために何をすればよかったかな」と問い

かけ方法の想起を促す。子供たちはノートに疑問を書き始めるだろう。そこで、上記のような「目当てを決める手順」をテレビモニターに表示し、タイマーをセットする。個人で疑問をノートに記述する段階では、すでに記述できている子供を取り上げて称賛することで、どんな疑問を書くかの参考にできるようにする。班での話し合いの段階では設定した時間通りに手順を進められるよう個別に声掛けをする。班長会議において各班から出された疑問の異同に着目させ子供たちの意見を聞きながら、子供たちが納得する目当てを設定する。課題を板書した後に、「みんなで考えて話し合ったので、この時間にやるべき課題ができましたね。おもしろそうだね」などと方法のよさを価値付ける。

めあてを決めよう！

・すぐには分からない
・一人ではむずかしい
・みんなで話し合いたい
・今やっていることからはずれていない

①自分が考えたいめあてをノートに書いてみよう。(いくつでもよい)
・前の時間のことを思い出す
・目標を確認する

🕒 1分

②班でそれぞれのめあてを話し合い、一つに決める。
・同じものをまとめたり、キーワードを決めたりする
(決まった班から班長は黒板前に集まる)

🕒 2分

③班長会議でめあてを決める
・すぐには分からない
・みんなで話し合いたい

🕒 2分

【目当てを決める手順】

～行 動～ 学習活動2・3

個人で考える際には、まず「減ってはいけない(赤)」、「減ってもよい(青)」のいずれかの意見を定めるよう促し、ノートに赤か青の付箋を貼って意見を明確に示せるようにする。意見を決めた後、そう考える理由を手元の資料や補助黒板にある既習事項を参考に考えてノートに記述するよう促す。考えを記述する際には、近くの友達と自由に交流してもよいことを共通理解しておき、友達の意見を参考に記述できるようにする。また、自分の考えを書けた子供には、友達の意見と同じか違うかを意識しながら交流するよう促し、考えを広げたり深めたりできるようにする。その後、意見を全体で交流する。出された意見を小規模農家が減ると発生する問題と利点に大まかに分けて板書する。小規模農家が身近な人の食料を確保することに貢献していること、彼らの活動が土地や水路等の維持につながっていることを押さえる。一方で大規模農家が日本の食料生産を支えていること、土地の集約が進めばより効率的に安く米が生産できることなどを押さえる。

全体で意見を交流した後、改めて自分の考えをまとめるよう促し、小規模農家と大規模農家のそれぞれの存在意義を捉えられるようにする。

～振り返り～ 学習活動4

学習支援アプリを用いて感想を記述することで振り返りを行う。振り返りの観点として、「自分ができたことやその理由」や「次に考えたいこと」を記述するよう指導している。カードは単元の終末に学習のまとめを記述する大きなカードを含め、全ての時数分用意しておき、現在何時間目まで学習が進んでいるのかを視覚的に把握しやすくする。また、提出箱に提出した互いのカードを閲覧できるようにしておくことで、互いの振り返りの内容を参考にしながら記述できるようにする。提出されたカードに対して、適宜コメントを返すことで、観点に沿った振り返りになっている

るかを意識できるようにするとともに、本時の学習で補足説明が必要なことについての記述が見られた場合はその場で解答を書いて説明するか、自分で調べるよう促したり全体に広げたりする。

日本の農業(稲作) (11時間)

目標：米作りについて完全に理解しよう
今後の農家の在り方を考えよう

2024/05/10 先生や友達の発表をよく聞いたので、自分の考えがよくなった。米作りの大変さや楽しさをよく分かった。米作りの大変さや楽しさをよく分かった。米作りの大変さや楽しさをよく分かった。	2024/05/13 先生の話をよく聞いたので、自分の考えがよくなった。米作りの大変さや楽しさをよく分かった。米作りの大変さや楽しさをよく分かった。米作りの大変さや楽しさをよく分かった。	2024年5月14日 知りたいことについて詳しく調べられた。次は、もっと詳しく調べたいです。	2024年5月15日 教科書や資料集をみて調べることができました。しかし、まとめがなかったため次はまとめを書きたいです。

【振り返りカード】